第2回　ふくしま元気トーク　まとめ

【 開催概要 】

日　時	令和３年２月６日（土） 午前１０時３０分～正午
テーマ	教育で人を呼ぶまち　ふくしま
場　所	キョウワグループ・テルサホール（福島テルサ） ３階　大会議室あぶくま
出席者	（１）学校法人有朋学園有朋高等学院　校長　神野　美智男さん （２）総合学習室アビリティ　塾長　佐藤　朋幸さん （３）桜の聖母短期大学　生涯学習センター長　三瓶　千香子さん （４）ＦＲＩＤＡＹ　ＳＣＲＥＥＮ　　代表者　鈴木　孝昭さん （５）福島大学地方創生ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｽｸｰﾙ 2030　福島ﾁｰﾑ運営事務局 事務局長　七島　貴幸さん （６）学校法人福島成蹊学園福島成蹊中学校・高等学校　校長　本田　哲朗さん （７）福島大学　教育推進機構高等教育企画室　特任准教授　前川　直哉さん （８）福島市小中学校　ＰＴＡ連合会　副会長　渡辺　真紀さん
（福島市）	木幡市長

【１　市長あいさつ】

私が市長に就任するに当たっては、教育・子育てで人を呼ぶまちをつくりたい、そういうまちでなければこれからの将来はないだろうと思いこれまで進めてまいりました。

私としてはこの３年間でかなり底上げは進んできたかなと思っておりますが、これからはプラスアルファのものを積み上げて、子育て・教育を高めていかなきゃいけないと思っております。本日は、我々に手厳しい視点も出しながら取り組んでおられる方々のご意見をお聞きするため、お集まりいただいたつもりです。

教育といっても単純に学力を上げるだけのつもりでは決してありません。むしろ、既存の教育システムではなかなかなじめない子供たちもいるわけで、そういった子供たちにも自分なりの人生、あるいは夢を実現できるような、教育なり支援が必要だと考えております。多方面にわたって、今日は有意義なご意見を賜れば幸いであります。

【２　主な発言内容】

（１）自身の教育について

●神野　美智男さん

本校に通う生徒は、中学校に行きたくても門をくぐることのできなかった不登校の生徒や、教室に入ることができずに保健室学習室にいた集団不適応の生徒、進学した高校になじめずに転校や編入学する生徒、情緒障害等によって中学校の特別支援学級に在籍していた生徒たちが私どもに通ってきております。本校は、創立以来このような生徒たちに手を差し伸べようとしてきた学校です。

●佐藤　朋幸さん
総合学習室アビリティは設立してから２０年ちょっとたちます。私一人でマンションの一室で始めたのが始まりで、現在、教室は福島市と仙台市にございます。
下は４歳から上は高校３年生まで、縦に長く教育に携わらせていただいております。

●三瓶　千香子さん
桜の聖母短期大学ではキャリア教養学科の教員をその学科の立ち上げから、ずっと十何年やっております。一方で、桜の聖母生涯学習センター長も担当させていただきながら、地域連携センター長もやっております。

●鈴木　孝昭さん
僕は福島市内でコミュニケーションデザインとグラフィックデザインの活動をしています。
教育としては、県立美術館と連携して、アーティストとして僕たちは呼ばれて、各県内の小中学校に出向いてワークショップを行うというような活動をしていました。

●七島　貴幸さん
イノベーションスクールは、2012 年からＯＥＣＤ（経済協力開発機構）と一緒に、震災復興の力になれる人材を育成しようということで始まりました。地方創生イノベーションスクール 2030 は、子供たちを 2030 年に起こり得る想像もできない課題に対応し世の中の役に立てるような人材に育成するために、事業を行っております。

●本田　哲朗さん
篤実な人間をつくっていくというのが本校の校訓のモットーでございます。
私、私学ばかり３校奉職していまして、埼玉県、宮城県、福島が一番長くて 18 年なんですけれども、教育というのはやっぱり福島限定版ではないと思うんですね。福島を飛び越えて、首都圏、そして世界に羽ばたいていけるような、子供たちをつくっていかなければと思います。

●前川　直哉さん
私自身兵庫県の出身で、７年前までは兵庫県で高校教員をしておりました。実は阪神淡路大震災後の兵庫も福島と全く同じ状況でした。人口は一時的に減るんですが、その後、人口を盛り返して、震災前より増えている市は全てやっぱり教育で有名です。
私もともとＮＰＯふくしま学びのネットワークというのを立ち上げて、福島でしかできないことや学べることを考えながら、主に中高生を対象に活動してきました。現在は大学でも同じように、福島でしか学べないことを学んでいく地域に特化した教育というのを担当しています。

●渡辺　真紀さん
北沢又小学校のＰＴＡ会長になりまして２年になります。ＰＴＡ連合会の副会長は１年目です。子供が年が離れて４人おりまして、一番驚きますのは平成９年生まれの子が小学校のときに習っていた授業の内容と、今現在小学校で勉強をしている一番下の子の授業の内容が全く違うということです。今は食育等が積み上がっていて、先生方の負担がとても大変になっていると思います。

市長	○阪神淡路大震災と同じような状況にあったみたいな話をいただきましたが、実は福島は阪神淡路大震災以上に原発事故で人口が流出しています。特に母子避難により若い世代が流出しています。その層が流出していったため、当然、出産適齢期の方も少なくなり、その次のまた世代・子供達も少なくなっている状況です。 ちなみに、福島県、高齢化率が全国で大体中ぐらいなんですね、実は 2040 年になると、全国で３番目に高齢化しちゃうんですよ。おそらく若い層が少ない影響がその後になって来るんだろうというふうに私は思っています。子供たち・若い世代にいかに定住してもらえるかというのは、非常に重要な問題だというふうに私は捉えています。

（２）福島の教育における課題

●保護者の意識を高めることも課題だと思っています。学校に全てお願いするのではなく、衣食住に関することは家庭、学校では勉強や人同士の付き合いを教えていただく場所と分け、先生方の雑務を減らすことが必要だと思います。

●子供たちに学ぶ理由を大人側が伝える必要があると思います。
学ぶことで社会や自分の周りの人たちを少しでも幸せにしていけると小さい頃から伝えて、どんどん地域に連れ出していくべきだと思います。子供たちは何年後には、社会の課題と立ち向かうため、地域の課題と子供の問題を切り分けてはいけないと思います。

●教育は、やっぱり効果的なものじゃないといけないというのが私の願いでありまして、基本がないと、積み上がっていかないと思います。全国学力での自分たちの立ち位置の現状に教育現場の人間が向き合っていくべきだと思います。

●これからデジタル化になって学校でタブレットが配布されると、先生の負担が大きくなると思われていますが、実は子供が先生になってもいいと思っています。子供が先生方をサポートしていけば、先生方の負担を減らせるのではないかなと考えているところです。

●なぜ学ぶのかというと、実現したいことがあって、そのための考え方の道筋を考えるということが本音なのかなと思います。例えば市の事業などを題材にして、子供たちが考えるなんてこともできるのかなと思います。そういった学びも実際に地域の大人、自治体、企業、学校の先生、家庭を全て取り込んでいけるような新しいシステムを福島から発信できればいいなと思っております。

●実現したい目標があって誰かに提供するとなったときに、どうやって魅力的に感じてもらうかというところが教育に関わってくるのかなと思います。物を見る角度みたいなことを教えるというのは、学校教育とかではあんまりできていないと思います。

●これから学歴社会ではなくて学習歴社会になっていくので、生涯学習で学び重ねができるような基礎学力と、目標を持つというような思考力を教えていくために、何で学ぶのかという入り口に立たせないと人は動かないと思います。
上から詰め込んでいく教育観を直していくことが必要で、もっと地域から協力者を招けば、多様な授業もできるし、教育の質が変わってくると思います。

●東日本大震災からの 10 年間で、世界中で最もいい思いをすべき子供たちは福島の子たちだったと思います。震災や原発事故で普通は経験しないようなことを経験し、だからこそ福島で特別なことをやるという許された 10 年でもあったと思います。ただ、残念ながら福島の子たちは本当にいい思いを教育でしてきたんだろうかと、思いとしてはあります。
これから福島の子たちは教育において特別な教育を施していくといった位置になるべきであるかなと思っております。

●最も日本の教育で注目を集めていると思っているのは、軽井沢の風越学園です。探求型の日本初の幼・小・中一貫の学園なんですけれども、日本のカリキュラムには全く基づかないような新しい教育を行っています。福島でも特色のあるような幼・小、もしくは小中一貫の市立学校、もしくは中高一貫の市立学校等々を設けて、教育で人を呼べるまちづくりやっていきますよと、まず宣言してしまうのが先かなと思います。

●私は教育の本質を考えていったときに、それは人格の形成だと思います。
発達障害と言われる少数派の子供たちは、多数派から見ると困った生徒という見方をされるんです。困った生徒ではなく、困っている生徒という見方ができるような学校教育に軸に置いておかないと、少数派の子供たちが活躍する社会を奪ってしまう可能性があると思います。

●小・中学校までは特別支援学級はありますが、高校はそういう学級がないんです。特別支援学校はありますが、高等部はあってもそこは高卒にならないんですね。福島市として全国に先駆けて、そういう子供たちを中心にした高等学校をつくれば、全国のそういう子たちに焦点を合わせている市なんだという強烈なアピールになると思います。

市長　〇学校は学びや気づきの場だと思います。教員は、担当教科を教えるだけじゃなくて、自分自身が全体として教育するような形にすべきだと私は思います。
教員が大変だというのは、いろんな雑務で大変だという部分があります。今、市役所はＩＣＴも含めて働き方改革をやっているんですけれども、教育委員会とか学校は進んでいないので、教育委員会にも本気になってそういった部分をなくすためにやってほしいです。

（３）基礎学力を上げる・人格形成を図っていくために必要なこと

●きちんと学生たちがクラブ活動を含めた自分の役割を果たし切っているのかと思います。学力というと勉強と捉えられますが、読み書きには当然、表現力・コミュニケーション力につながる語彙とか、相手の話をきちんと聞き入れるようなこともあると思います。そろばんの中には、加減乗除にとらわれずに数学的なセンスとかも全部入ってくると思います。それを活躍できる一番ベーシックな元のものをつくらなければ駄目なのではないのかなと思います。

●保護者の経済格差では、持てる者が子供をうまく育てていて、教育現場にも効果が出ています。そういった意味では、地方はどんどん後れを取っているなという実感も持っています。そういったものを保護者にも訴えながら、学校と連携して焦点化して問題を解決するかというのが非常に大事じゃないのかと思います。

●保護者が自分の子供を育てるときに、将来につながる教育をしてもらうというのが一番魅力的なものなんだと思うんです。その将来像というのは一人一人違いますが、共通のものもあります。共通のものは、しっかり福島市では担保できる教育がなされているんだというのは非常に大きな魅力になると思います。

●教育学をやっている人が集まっているまちが福島市です。桜の聖母短大・福島学院大・福島大学が教員養成系の大学という要素も大きいです。教育の問題というのは、実際の具体的なケースによって全然対処法が違ってきます。知恵を出せる専門知を持っている教育学の専門家がたくさんいる福島市の特性を生かして、例えばワーキングをやってどんどん力を借りていって、現場の教員に受け入れてもらいながら世界・日本最先端の学術知を取り入れていくことをやらないのはもったいないんじゃないかなと思います。

●このレベルまでは絶対にしようというターゲットが漠然としていると、個人の状況や能力やご家庭の資質に投げ、そこに向かってやるよとまず動いていけると思います。

●子供たちにできるよというメッセージと経験をさせていくことが必要だと思います。基礎学力につまずきのある子ほど、学習に対してネガティブなイメージを持っているので、学習し続けてもできない思考でずっと脳が勉強してしまいます。

●学校は履修ではなく習得を目的とすべきです。履修が目的だと基礎学力が抜けていくんですけれども、習得が目的ですと何だかんだ習得して前に進みますので、基礎学力が抜けるということは理論上はほとんど起きてこないと思います。

●ある小学校では、地域の健全育成推進会のほうに働きかけをして、塾に通えないご家庭のお子さんたちを対象に夏休み中に学校から出た宿題を持ち寄って、元教員の方の指導によって勉強会が開かれているそうです。これはＰＴＡと地域のつながりでやっていることなので、全部の小中学校でやれるかというと分からないところで、そういった話を聞いているからと行政でそこに若干加わっていただけると、もしかしたらみんな学びの場ができるんじゃないかと思います。

市長　〇日本人って平等というのを気にしてしまい、行政もそうなのですが、非常に弊害になっている部分が多いかなと思っています。今ある学校でやっているという話ならば、一つのモデルとして私は応援したらいいと思います。
特にこれからの時代、先ほどの不登校もそうなんですけれども、多様性を尊重していくというのがやっぱり大事なんだろうと思います。市のほうでも今回、総合計画では市政５原則のうちの一つに、多様性の尊重というのを入れました。いろんな違いを認め合って、その中で助け合っていくような取組を進めたいなと思っています。

〇不登校の問題についても、最初に困ったもんだというのは、同じじゃないから困っていると思っちゃうんですよね。それは困っているという問題を抱えた子供だし、その問題をそうした場合にどうやって解決するかというのが大事なんだろうと思います。

〇教育全体でいうと、今、先生の多忙化等で、その違いに対応できる体制ができていないと思います。今回 35 人学級という原則で一つは職員が配置されますので、平等にやるよりは、そういう違いにも対応できるような体制づくりというのは、例えば遊軍をちょっと多めにつくるとか、そんなこともありなのかなと思っています。

〇少し考えているのは、福島市がどんなに教育をよくしても、結局、県全体で運営されているんです。特に教員の部分は。だから、福島市にすごくいい先生がいたとしても、抜かれちゃうとどうしようもないんです。
だから今、単独教員を採ろうかと思っているんですよ。あるいはスーパーティーチャー、スーパー指導員みたいなのを抱えて、企画をやったり、時には現場に出ていったり、福島市内の大きさであれば運用できるんじゃないかなと思っています。

（４）地域ならではの教育

●先駆けて本格的にやったらどうかと思っているのは、コーディネーターの育成かなと思います。
福島市って大学が集中していて、学びの場所もアオウゼとか学習センターなどもあったり、専門知見を持っている教員もいっぱいいます。それが縦割りなんですね、全体俯瞰して、橋渡しをしていくコーディネーター職を専門的に育てていくような制度、認定証をもらってちゃんとそれで食べていけるようにしていく。特に、校長先生上がりの人をしない。むしろ分からないという人に多く担っていただくべきだと思います。
ディスカッションができるようなものだったり、コーディネーター育成講座みたいなものをつくるよう何とか制度化したらどうかと感じるます。

●実は人柄のよさというのは福島のとてもよいところです。地域のよさである人とのつながりがうまくいけば、地域の方々が支えることによって、学校の先生の負担って大分減るかなと思っています。

（５）本日のトークを終えての気づき

●いろいろな多角的な見方、考え方ができた機会になりました。

●学校の先生だけ教育の仕事をするだけじゃなくて、学校がある程度プラットフォーム化して、いろんな人材が子供たちにいい影響を与える環境が理想的なのかなと思います。地域と連携した本当のいい教育現場づくりにつながっていくのかなと思いました。

●福島市にある大学全部が入っているプラットフォームがあるんですけれども、そういう名前とか必要なくて、弊害化しないで、いろいろと議論ができるような、ウェブ上、対面でもプラットフォームが動くような形がいいかなというふうに思っています。

●今日は専門の方がこういうふうに考えているんだなみたいな感じが見えて、面白かったです。僕は僕で、これからも何か想像力の種を子供たちに与えられるようなことをずっと続けていきたいなと、それが今自分としては重要なことだと思っています。

●まさにプラットフォームを４月から稼働させようとしていましたので、ぜひとも皆様のお力添えをいただければなと思っておりました。今日は私にとって学びなのですけれども、この後、子供たちにこの大人たちが真剣にどう話し合っているんだという姿を生で伝えて、その子供たちと皆様を今度つないで、本当に教育プラットフォームが福島から発信できるようにできればなと思いました。

●学ぶはまねるから来ているという言葉があるように、私も学校では教員同士お互いに学ぼうと、いい結果を出している先生の授業に触れるとか、子供たちにもいい人をまねようということをよく言います。意外と私たち大人が欠落しているのはいいものを取り入れようとする姿勢だと思います。

●灘高の教員だった頃に生徒たちと一緒に宮城、福島を何度も訪れていたんです。福島高校の生徒と一緒に過ごして、生徒たちの反応は、灘高は福島高校に負けていると。福島高校の当時の生徒、課題の解決のためのプロジェクト、ものすごいことをやっていました。七島さんがやっておられるプロジェクトなど、21 世紀型学びを体現して日本で最先端の学びをやっている子供は福島にはたくさんいる、その子たちを本当にモデルにして、ここでしかできない学びができるのに大人がそのすごさを理解できていないのかもと感じます。

●ＰＴＡの会長になってから、学校とか教育というのは、先生方とか行政の方たちもいろいろ考えてくださっているんだなと、周りの方に恵まれているなというふうに思うようになりました。ほかの保護者の方も、そういうことが分かってくれたらなと思います。

【３　まとめ】

私は東京に行って大学に入り、友人たちもいわゆる難関大学といったものを通過した人間が多かったわけですけれども、東京で所得が高いところに就職をして、その子供たちがコストをかけた教育投資を受けて、チャンスに恵まれて進んでいくということになると、どんどん田舎の教育が重視されていない社会になっていくわけですよね。やっぱり地方とか、こういう苦難に遭ったところほど、教育は重視しなきゃいけないんだろうと思います。

ただ、今の政治は、必ずしも教育が重視される仕組みにならないんですよ。今は、少子高齢化ですから、政治家を選ぶ人は高齢者のウエートが圧倒的に高いです。福島市は他市と比べると、生涯学習センターが十幾つもあり立派です。そこで、お年寄りの人たちは割と趣味の活動とか、生涯学習が非常に盛んです。ところが、学校は本当にぼろぼろな状況でいるわけです。それは、これまでの政治システムの中で、教育は、力が弱くて資源配分で重視されていなかった部分があるんですね。私は市民の皆さんに説得してでも教育に持っていかなきゃいけない、あるいは現状を説明して、今の資源配分のウエートを変えていくべきじゃないかと思っています。

私も皆さんから、福島はこんなに優れた資源があることを、今日もまた教えていただきました。私自身も、国が言ったことをなぞる気は全然なくて、福島ならではのいいものをつくっていきたいと思っていますので、できる限り福島の人づくりが非常に地域ならではでの魅力的なものになるように努めてまいりたいと思います。これからも本音で厳しい意見でも結構ですのでお伝えいただければと思います。私もできないものはできないというふうに申し上げますし、あとは今できなくてもいずれやりたいなと思ったことは、できる限りまた頑張ってやらせていただきたいと思います。

出席者の感想

●テーマ・進め方・会場内のソーシャルディスタンもコロナ禍での開催にも関わらずとても配慮されていて、率直に意見も出来て良かったです。

●正直なところ、今回の会の開催目的があまりわかりませんでした。参加者が市長から市政について聴くことが主目的だったのか、市政に役立てるために、市長が参加者から意見を聴くのが目的だったのかということです。また、意見交換が主目的なのであれば、事前にテーマを設定し、参加者全員に告知しておいた方が、より活発で充実した会になったものと思われます。「教育について」では、あまりにも漠然としており、出される意見はそれぞれの立場を色濃く反映しており、その多くがピンときませんでした。

●参加者の皆様の取り組みや背景がよくわかり、今後個別にお話しをお聞きしたり、生徒たちへもお話しいただきたいと思っております。

●形骸化せず、実のある事業として継続なさることを願っております。

●「ふくしま元気トーク」＝本音トークの主旨で実施されることは大変素晴らしい企画だと思いました。本音で発言するには当然それに伴う責任ある実践がなければならないと考え、発言させていただいた次第です。民主主義の良いところは自分の行動の主体を自の判断に委ねられている所だと思うのですが、反面１００人居れば１００の考え方がある訳ですので、常に落とし穴の難しさがあると考えています。その意味でも、このような開かれた機会のあることはとても有意義であると考えます。